

第2回 生駒市子ども・子育て会議 会議録

| | |
|-------|---|
| 日 時 | 令和元年9月30日(月) 午後3時～ |
| 場 所 | 生駒市役所 大会議室 |
| 出席者 | 会 長 吉岡 眞知子 副会長 清水 益治 委 員 白樫 学 武田 香織 前田 良一 柴田 玲子 岡島 保弘 谷猪 富貴子 堀田 勝 宮内 恵理子 崎山 良子 築瀬 裕子 |
| 事務局 | こども課 |
| 会議の公開 | 公開 |
| 傍聴者 | あり |

1. 開会

2. 議題

- (1) 第1期子ども・子育て支援事業計画の実施状況について
- (2) ニーズ調査の調査結果報告について
- (3) 子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」について

会 長：それでは議題（1）第1期子ども・子育て支援事業計画の実施状況について、事務局より説明をお願いします。

事務局：（資料説明）

会 長：ただ今の説明に関して、質問・意見はありますか。

委 員：13ページの「実費徴収に係る補足給付を行う事業」、教材・行事費等のところで、支給児童数は人数が増えているのに補助額が減っているのはどういうことか。

事務局：生活保護を受けている人の申請によって給食費や教材・行事費等が交付されるしくみになっているが、通っている施設によって教材や行事費が異なる。実費徴収された分が対象となるので、結果として金額が減っている。

会 長：数字は間違いはないか。

事務局：数字は合っている。

委員：1 ページ。待機児童の数だけを見ると増えている。

事務局：この5年間で保育園は定数を300人以上増やしてきているけれども待機児童は増える傾向にある。生駒市は“日本一専業主婦率が高い市”ということで、潜在的な就労希望が非常に多く、女性の活躍推進という社会的流れの中で影響を受けやすい地域である。

また、待機児童のカウントのしかたが国や県で統一されていない。県内のある自治体の場合、市内の保育園全部をエントリーしてなおかつ入れなかった場合によやく待機児童ということだが、生駒の場合、27か所の保育園のうち2園だけ選んで申請できる。「通勤途中のこの園でないと入所を希望しません」という人もいらっしゃる。今年9月入所の時点でも待機児童48人のうち38人は、空きがある園はあるのに希望園のミスマッチによる。そのような待機児童のカウントのしかたもあって、生駒市の待機児童数は他市よりも多くなっている。

会長：カウントのしかたが他の市と少し違っている。保護者の希望を優先してカウントしているということである。待機児童が多い一つの原因として「保育士不足のため」と言われたが、それについてはどうか。

事務局：特に0、1、2歳は1人の保育士がみられる子どもの数が少なく、0歳児だと3人、2歳児だと6人となっているが、今は保育士が不足している。部屋のキャパシティでは、例えば0歳児が12人入れる部屋でも保育士が3人しかいなければ0歳児は9人しか受け入れられず、3人が待機児童になってしまう。生駒市は、部屋のキャパシティは十分にあるが保育士が足りないために子どもの受け入れができなくて待機児童になっているという側面がある。

会長：市の定員を満たすほど保育士がいない。その為に待機になっている。保育士不足を解消するためにどう考えているのかを教えてください。せっかく部屋の環境があるのに保育者の環境がないために市民にしわ寄せが行っている。その辺りの解消の考え方はどうか。

委員：私の園でも待機児童の状況が読めないうえに、保育士を募集しても来ないという状況だ。

会長：市の見解を聞きたい。

事務局：潜在保育士の発掘のため、平成29年度から「資格を活かそう」相談会を実施している。私立園にご協力いただき、実際に市民の方に給与面や待遇、働き方、園の様子を説明してもらい、雇用に結び付けるための試みを行っている。平成29年度は短時間の人も含めて17名の臨時職員の雇用に結び付いた。昨年度は8人（イオン登美ヶ丘店に出向いて実施）。今年度は11月に2日間の実施を予定している。10月23日から11月初旬には、市内の保育園子ども園を回るバスツアーを企画した。また、相談会の後には、職場体験ということで実際に園に行き午前中保育を体験し、自分が働いていけるか経験してもらおうという3段階の企画も行っている。本年度の職員採用は、現在2次試験が終わったところである。

委員：市で一生懸命してもらっているが、絶対数として人数が少ない。他県ではインターネットを使うなどいろいろな方法で取り組んでいる。生駒市もいろいろな情報を仕入れてわかりやすい対策をとれば、もっと広がっていくのではないかな。

会長：他市の情報も得ながら広く訴えられる方法を考えてほしい。保育士不足のために待機児童が生じている状況だ。

副会長：養成校としても学生たちには働きかけているが、最終的に仕事を決めるのは本人なので、強制はできない。市が許せば公立の採用を増やしてほしい。無償化が動きだしたら更に保育士が必要になる。その人たちがうまく働けるように、経験を積んだ人がメンターとなって新人を指導する体制をとれるとよい。ある市では保育士が研修の時は誰かがサポートする体制をとっており、園長が保育のサポートに入っているところもある。

会長：養成校の立場で、学生が給与水準をみて躊躇する人がある。パートは公立と民間で時給の差があり、民間はパートに来てもらいにくい。民間との交流も含めて人件費の支援も検討してもらえると有り難い。

事務局：国による民間保育士の処遇改善の制度はある。生駒市も市独自で給与改善の支援に取り組んでいる。

会長：他にご意見はないか。
それでは、議題（２）ニーズ調査の調査結果報告について、説明をお願いします。

事務局：（資料説明）

会長：事前に資料２に目を通してもらっているが、今の説明でもっと聞きたいことがあれば出してほしい。

副会長：45 ページ。子育て支援事業の認知・利用状況、利用意向の母数はどうなっているのか。

事務局：「知っている」「知らない」にかかわらずということである。

副会長：利用者数を増やしていくためには、まず「知っている」を増やす。「今後利用したい」が少ないということは、あまり意味がないという捉え方もできる。「はい」と答えた人と「いいえ」と答えた人で「利用したい」と思っている人の割合を比べたらよい。知っていたら知らないよりも利用したいと思っている人の割合が高い。知らせていくことがまず第１に求められる。

事務局：「今後利用したい」では、例えば「はじめての離乳食講習会」だと０歳児が対象になり、その時に行ったから知っている。でも子どもはもう３歳になるので、今後の利用は「いいえ」に○をしているというふうには、事業の対象年齢が決められているものもあるので、利用意向に影響があるのではないかと認識している。

会 長：低い年齢対象の事業が多く、支援事業の利用者数が減っているように思う。その理由は事務局ではどう考えているのか。

委 員：子育て支援事業の項目を見ていると、時々利用している人に会うことはあるが、実際に行っているのかなと思う。利用者はたくさんいるのか。

事務局：今までの経年の数字では、資料1の3ページに地域子育て支援拠点事業がある。ぴよぴよサロンは平成27年の321人が平成30年は217人と110人減っている。この背景としては、出生数が減っていることと保育園に行く人が増えていることなどから対象児が減っていることが一つの原因とみられる。

委 員：5歳と3歳の子どもがいる。1人目の時はぴよぴよサロンに行っていたが、2人目になると上の子を連れて行くのが大変で、2人目以降は利用しにくいのも原因かもしれない。

会 長：「複数の子どもをもつ保護者が行きやすい場があれば」というご意見である。

委 員：子どもの年齢が近い場合は行くところはあるが、子どもの年齢が少し離れている場合、きょうだいと一緒に行動しにくい。
資料1の3ページでは全体の利用人数は増えているが個々には減っている。サロンは限られた年齢の子どもたちなので短期間しか行けない。子どもが大きくなってしまっているので、人数は読みにくいと思う。事業がたくさんあるので選択肢は多い。

会 長：たくさんあるということは選ぶことができてよい。

事務局：地域子育て支援拠点事業というのは、子育て支援センター、みっきランドの他に、私立の保育園などでも部屋を開放してもらっているのも含まれている。
平成27年度は4か所であったが、平成30年度は8カ所まで増えており、利用人数も増えている。

委 員：123ページの「小学校・中学校の小規模化に対する考え方」で、子どもが少ないから小規模化になるというのはしょうがないと思うが、小規模化を望まない保護者が多い。生駒市としてはどうなっているのか。

事務局：担当課である教育総務課では、小学校の適正配置ということで今、進めている。年内に検討委員会からの案をとりまとめて来年にはパブリックコメントをすることになっている。

委 員：あすか野小学校は人数が増えており、他の小学校は減っている。

事務局：あすか野小学校は1000人を越えており、今は県内で一番児童数が多い。校区内に大きなマンションがたくさんできたので小学生のいる家庭の転入が非常に多かったことが一番の要因だと思われる。どの小学校も全体的にバランスよく転入があればよいが、あすか野小学校だけに集中した。施設を増築したので1000人を越えても対応できるが、校区間のアンバランスがある。200人から1000人と小学校の児童数にバラつきがある。

中学校も、上中学校はあすか野小学校の校区を含むので、今後増える見込みである。校区の見直しは今の状況では難しい。どの市町村でも校区のアンバランスは起きている。あすか野小学校もこれ以上増えることはない見込みであり、今後受け入れができないというような状況にはならないと考えている。

委員：65～67 ページ。放課後児童クラブ（学童保育）のことで、未就学の人にこの質問をしている。日曜日、祝日、長期休暇がアンケートに入っていて、「長期休暇に利用したい」という答えが多いが、この書き方だと今既に長期休暇もやっているように思う。選択肢の中に、今はしていない項目をつけ加えてもらいたい。既に長期休暇もやっていることが前提になっている。

事務局：生駒市が事務局をしている学童保育の運営協議会で、各小学校の敷地内にある学童保育では今のところ長期休暇のみの受け入れは行っていないが、市内に6カ所ある民間の学童保育では、規模は小さいが現在夏休みだけの受け入れを行っている。

会長：そういうことを知らない市民もいる。情報があればよい。

委員：アンケートの中に情報があれば、選びやすいのではないか。それぞれの事業内容の情報をアンケートに同封しておくとうい。

委員：奈良県の場合は私立が少ない。調査の結果は当然だという感じを受ける。問8で、「家庭」は100%に近い数字が出てほしい。家庭の影響は大きい。

委員：74 ページ。問30で「つらいと感じることの方が多い」とあるが、何がつらいかはどうなっているのか。「つらい」をできるだけ「楽しい」にしてあげることが必要だと思う。つらい気持ちを転換できる情報があればと思う。アンケートに回答していない人では、もっと「つらい」の割合が高いのではないかと想像する。

委員：私なら「楽しいと感じることの方が多い」。それはなぜかという、育休をとっていた頃の手帳を見ると、市のぴよぴよサロンに参加して知り合いが増えて同年代の方々といろいろ交流をしていた。それがなければ相談する相手もなくて、家で子どもと2人で「どうしていいかわからない」ということになって「つらい」になっていたかもしれない。このような活動に参加しやすくなるように今後も続けてもらいたい。

事務局：子育て支援総合センターにみっきランドがあり、小さい子どもを連れて行くことができる。保育士のOBがいて、今はそこでの相談件数が非常に増えている。「イヤイヤ期だけれどもどうしたらよいか」「思うように食べてくれない」というような、今までなら両親や近所の人に聞けるようなことも相談相手がいない人が増えている。家から出てお母さん同士のコミュニケーションをしながら相談ができる場である。

委員：81 ページ。「子どもの子育てについて気軽に相談できる人の有無」で、「いる」が90.5%、「いない」が8.4%となっているが、8.4%という数字を「少ない」と捉えるのではなく、「8.4%もいる」と捉えて相談できる方法を考えていかなければと思う。

委員：65ページの学童の問題で、親は学童に行ってほしいが、子どもは学年が上がると学童行きたがらないとよく聞く。子どもが「どうしても行きたくない」となった場合、仕事を辞めて家にいることにしたという話を聞いたことがあり、今後アンケートの時に、学童保育の中身についてもその理由がわかるような調査をしてもらえるとありがたい。

事務局：生駒市の学童の運営自体は第3セクター方式で行っている。また、保護者も運営に携わっている。保護者会、指導者、生駒市の3者がそれぞれの専門性を活かしてやっている。保護者が、現状について「課題である」ということであれば、話が上がっていくという組織運営になっている。事務局が報告を受けているところでは、高学年になると学校が終わる時間が遅くなる。そのあと習い事があるということで、そもそも入ってこない人が多いと聞いている。

会長：学童の中身や質はどうか。

委員：自分の子どもはまだ保育園だが、小学生になったときに、親としては嫌がるのに無理に行かせるわけにはいかない。

会長：それぞれ専門のところで意見をもらって検討してほしい。
それでは、議題（3）子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」について、事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料説明）

会長：資料4の説明について、質問等はないか。

副会長：わかりにくいところがある。例えば4ページ、5ページは令和元年と令和2年の数字は実績値にある程度近い数字になっているのでわかるが、6ページ、7ページは、令和元年の実績値と令和2年の値になぜこんなに大きな違いがあるのか。普通は元年の実績値から推測していくはずである。

事務局：令和2年以降は量の見込みの数字である。ニーズ調査の中で、今は「認可保育所を利用したい」と回答された方をほぼ全員拾っている数字になっているので、ニーズ量が多く算出されている。実績値と今後の計画の数字が大きくかけ離れているところは補正をかけているので、補正後の数値を次回示して検討していただく。このようにかけ離れている項目や部分については次の会議までに数字を確認する。

会長：次は近い数字（現実的な数字）が出るそうなので、それを待って議論する。これで質疑が終了したので、事務局にお返りする。

3. その他

事務局：資料5 生駒市子ども・子育て会議 令和元年度 スケジュールについて。今後のスケジュールについて、第5回と第6回の時間と場所が決定した。第5回は2月4日（火曜日）午後3時から市役所の大会議室で、第6回は2月18日（火曜日）午後3時から市

役所の 401・402 会議室で開催するのでご出席をお願いしたい。会議の前に案内をお送りする。

会 長：案件は全て終了した。

事務局：それでは本日の会議はこれにて終了する。

4. 閉会